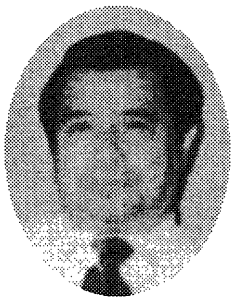
北海道教育大学学術リポジトリ
Hokkaido University of Education Repository
国立大学法人 北海道教育大学
HOKKAIDO UNIVERSITY OF EDUCATION

退官によせて

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-07-07 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 朝山, 幸彦 メールアドレス: 所属:
URL	https://hokkyodai.repo.nii.ac.jp/records/9313



退官によせて

朝山幸彦

先日、編集担当の山本理人先生から、前題で書く様依頼された。私の退官は、体調不調を主に家庭事情も相まっての、我侭の故なので、一寸困っている。併し、昭和43年から33年間の長きにわたり、何とか勤めさせて頂けた感謝の気持から、想起からお礼をしたいので駄文をものしたい。和歌山は高野山大に次ぐ勤め先で同じ教員生活ではあったが、初めは、私大との違いを強く感じた。だが公的意味の完徹は、結構難問か。着任時、統合問題や大学紛争と揺れ、二者択一でいうと、にぶい頭脳・世間知らずの私には、平坦でもなかった。併し、44年間の専門継続と34年間の教員生活を岩見沢校でしめくくれることは感慨深い。只、皆々様には深謝申し上げるばかりである。お育て下さった恩師方、協力してくれた家族親族達、そして何よりも支え理解下さった各職場の皆様のお蔭であることは、言うまでもないが、素直でさわやかで若き学生達と勤めの大半を過させていただけたことは、幸せでもあった。浅学軽薄で怠惰な自分には、学生達や職場そして市民の皆様方に、御迷惑をおかけした方が多かったのではとも案じている。当校では、北大駒大が近くにあって、適度な刺激も得られ、豊かな自然とゆったりした市民気風の中で、文科・知性の中心と期され、小規模校のよき伝統を保っていた。例へ、無名の大学であろうと真理真実の究明と人間教育の社会的使命はゆるがせにはできないであろうが、その基盤は受けつがれているのでないだろうか。今度も地物の先生から学生達と合作の脳死・臓器問題の教材をいただいた。老子や仏教まで学んでいて、学生思いの柔軟性がいい。史学の先生からは原典ゼミの翻訳を今回もいただいたがまじめさがいい。音楽会や書道絵画展、舞踏等々楽しんでいるのがいい。いつか市民会館での展示会も見せていただいた。地域とのつながりは強みか。大学づくりは、社会と同じく、基本は人間であり、真理真実が通用・尊敬されるべきで、これら日常活動の積み上げは今も健在だ。若くとも人生の師はいるが、H先生ポツリと『私の様な仕事ぶりで、こんなに給料いただいてよいのだろうかな』と言いつつ、日本の学会へは、地域の生態を詳記している。N先生『先生の研究室の学生達は、何故か生活感が稀薄だ』と教育的視点は適確だ。亡きA先生『君、どうして自分の使いたい皿をもっと手元にひきよせないのか』同じくN先生「君、人に要求を出さないね。」「今何か本気になっているな、目に秘めている」。i先生「結婚・愛することは闘いとることでないのか」。F先生「体調故、定年までやれるかどうか。大学もつぶれない様に慎重に」等。研究室をいつも支援して下さったS先生、真摯な学究と人格陶冶を大学人の理想と考えておられる。厳しい条件の中であろうと、レベルの高い論文をものされた亡きA先生は、変謀しゆく地方分校の中での良心であったのではないか。教官会の議事を進める中でも、よく考えさせてくれ、先生の学問のそれが反映していた。大学の良心は、中央の旧帝大ばかりではなく、地方にもあり、しかもその現身説法は、個々の生き方に依り、規模大すぎると接し得ず、どんな地域・領域にも条件次第で現出し、高く、深くかつ社会性の大きい存在性を示しているのではないか。我々もその系列に転換しないと見えてこないのではないか。個がいいかげんである事で、いか程、社会に御迷惑をおかけすることか。逆に、社会が皆んなが、意欲的・学行的である事に依って、個は矯めされ、育てられ、確立、充実が保証されることか。個々の条件による可変力の不思議さと、社会・世界文化の厚み・底深さの相互関係を、岩見沢校倫理学担当を通じて、味わせていただいてきた。有難うございました。